

哲学教育における組織的な情報共有の重要性 哲学教育研究会の設立

哲学者とのファースト(アンド・ファイナル?)コンタクト の場としての哲学教育

稲岡大志

第75回日本哲学会大会

男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ:
哲学と導入教育——哲学教育の質的向上を目指して

2016/05/15 於:京都大学吉田キャンパス

哲学者とのファースト(アンド・ファイナル?)コンタクト

- 多くの学生にとって、教養課程として受講する哲学の授業は、人生で初めて哲学や哲学者に触れる機会であり、おそらく最後の機会である。
- そうした学生に、何を、どうやって教えればよいのか？
- とりわけ、哲学史をどう教えればよいのか？

哲学史を教える難しさ

- 学生が学ぶ動機付けをどう与えればよい？
- 15回や30回の授業で哲学史をどこまでフォローすべき？
- 授業外学習をどう設定すればよい？
- 教科書は使う？使わない？
- レポートや試験などの評価方法はどうすべき？
- 学生にとって身近な話題とリンクさせにくい主題をどう教えればよい？

なぜ教養教育で哲学史を教える必要があるのか？

- 1: 身に付けるべき教養として教える。
- 2: 哲学する、哲学的思考をするための基盤として教える。
- 3: より一般的なスキルの習得のために教える。
- 4: 教養教育では哲学史を教える必要はない。

哲学史の授業をどう設計するか？

- 「学生目線」をどう捉えるか？有用性アプローチか？魅力・関心喚起アプローチか？
- 到達目標は？知識の習得？スキルの習得？
- 授業スタイルは？講義型か？アクティブ・ラーニング型か？
- 授業内容は？時系列に沿った内容か？テーマ重視の内容か？

哲学史をどう教えるか？

- ①:時系列に沿った講義スタイル:古代ギリシアから現代まで、代表的な哲学者の議論を講義する。受講生の関心を引きつけるために何らかの工夫が必要。どうすれば受講生の知的好奇心を高めることができる？
- ②:テーマ重視の講義スタイル:「心」「時間」「無限と有限」「生命」「正義」といった、特定のテーマに絞って、アラカルト的に哲学史を講義する。開講学部・学科の特性に合わせて授業内容をデザインできるので、受講生の関心は引き付けやすい？

- ③: 講義とディスカッションを織り交ぜたスタイル: 講義形式をベースにして、テキスト読解やディスカッションを織り交ぜる。たとえば、プラトンの対話篇を読ませて、議論の構造を分析させたり、神の存在証明を素材にして三段論法や論理学の初歩を教えたり、デカルトの「夢の懐疑」にどう反論するか議論させたり、など。
- ④: フリー・スタイル: 時代やテーマにとらわれず、毎回特定のテーマ・特定の議論・特定の哲学者を取り上げて講義する。多様な授業内容を用意することで、受講生に哲学的関心を引き起こさせる。

		授業内容	
		時系列	テーマ別
授業スタイル	講義型	①:時系列に沿った講義スタイル	②:テーマ重視の講義スタイル
	アクティブ・ラーニング型	③:講義とディスカッションを 織り交ぜたスタイル ④:フリー・スタイル	

哲学史の授業をより魅力的にするために

- 初回授業を「哲学 (philosophy)」の語源の説明から始めてどれだけの受講生がわくわくするだろう？
- 哲学の「て」の字も知らない受講生をひと目で一気に惹きつける問いの活用。
- シラバスに「問い」を持ち込む。
- 毎回の授業で扱う「問い」をはっきりとさせる。
- ⇒ 問いを定めると到達目標も定まる。
- お馴染みのフレーズをアレンジする。
- ⇒ ニーチェを扱う授業で、「神は死んだ」ではなく、「誰が神を殺したのか？」と問う。

到達目標 Course Objectives	到達目標 / Course Objectives ①西洋近代哲学の主要な哲学者の議論について理解し、自分で再構成できるようになる。 ②哲学史、科学史といった哲学者の背景にある事項についての十分な知識を得る。 ③西洋近代哲学史を通じて哲学者が問い続けてきた問題について理解できる。
授業計画 Course Content	授業計画 / Course Content 1 インTRODakション (第1回) 2 大陸合理論の哲学 デカルト (第2回 - 第4回) スピノザ (第5回 - 第6回) ライプニッツ (第7回 - 第8回) 3 イギリス経験論の哲学 ロック、バークリ (第9回 - 第11回) 4 ドイツ観念論 カント (第12回 - 第14回) 5 まとめ (第15回) 授業時間外学習 / Expected work outside of class 復習として授業中に指示する参考書の該当箇所を読むことで、講義内容の理解を定着させること。また、授業中何度か小テストを課す予定です。
	方法 / Course Content 定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

田中正人著、斎藤哲也編集・監修、
『哲学用語図鑑』、プレジデント社、
2015年.

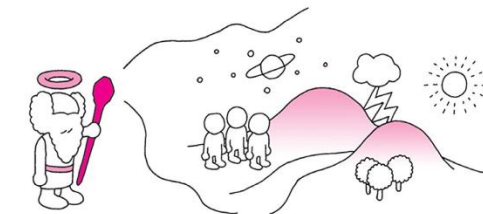


自然哲学

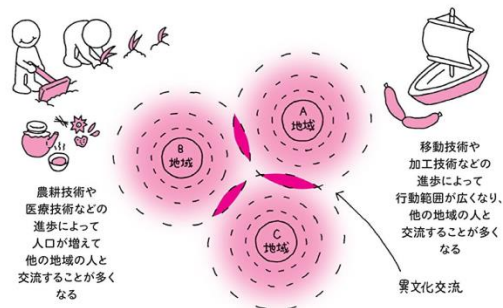
語義-----自然の本性を合理的に探求しようとする哲学
 文献-----アリストテレス『形而上学』
 具体例-----タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネス
 類義語-----自然学

その昔、自然（世界）は神々によって創られたと信じられていました。人々は神話から世界の成り立ちを学んでいたのです。

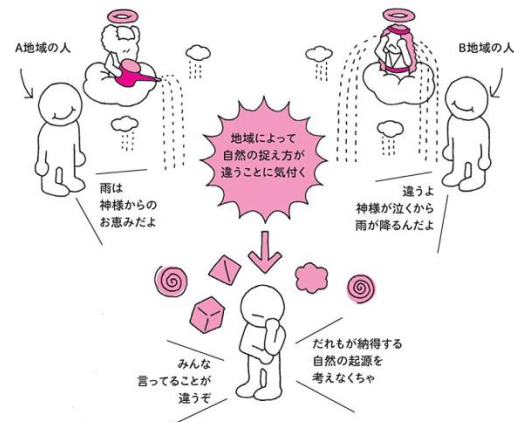
026



やがて様々な技術が進歩すると人々は豊かな暮らしができるようになりました。人口が増え、異なった地域の人々が交流するようになりました。

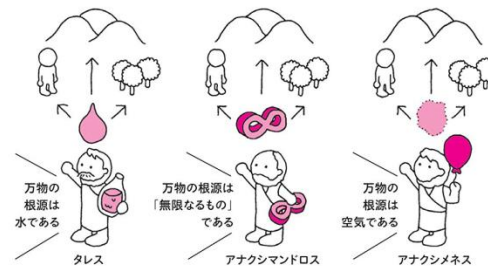


すると人々は、地域によって自然の成り立ちの神話が違うことに気づいたのです。



027

そこでだれもが納得するような万物の根源を考える必要がありました。タレスは万物の根源を水だと考え、アナクシメネスは空気であると考えました。根源が水なのか空気なのかはあまり重要ではありません。万物の根源を神話で説明するのではなく、自分の頭で考えて、自然の中に根源を見いだしたことが新しい考え方でした。これが**自然哲学**の始まりです。



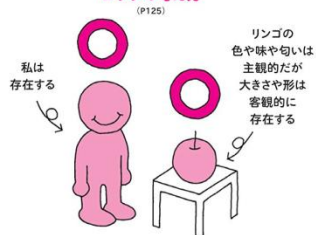


知覚の束

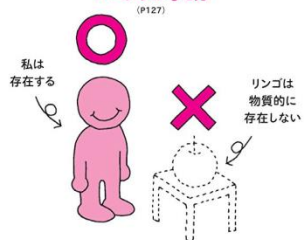
文 献 ----- ヒューム『人間本性論』
 関 連 ----- 因果関係 (P130)
 メ モ ----- ヒュームは神の実在も否定。
 心とは「印象」と「観念」だと考えた

ロックはリンゴの色や音や匂いなどは実在しないと考えました(二次性質 P125)。さらにパークリはリンゴの存在そのものを否定しました(存在するとは知覚されていることである P127)。けれども 2 人ともリンゴを見ている私の存在は疑いませんでした。ヒュームはこの私すら疑います。

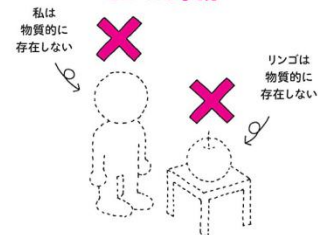
ロックの考え方



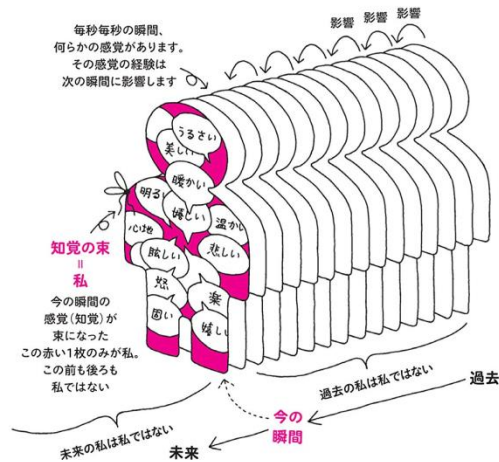
パークリの考え方



ヒュームの考え方



それではヒュームが考える私とはどんなものだったのでしょうか？ 人は今現在、五感（聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚）によって、「寒い」「心地よい」「うるさい」…といった何らかの感覚（知覚）を感じています。私とは今の瞬間、これらの感覚（知覚）が集まったものにすぎないと彼は言います。彼は「人間とは知覚の束である」と表現しました。



ヒュームにとって感覚（知覚）のみが確かに存在するもので、私という実体 (P132) はありません。

トップカスタマーレビュー

★★★★★ ははー。この手があったか！

投稿者 木村尚義 [VINE メンバー](#) 投稿日 2015/3/25

形式: 単行本 (ソフトカバー)

あくまでも本書は哲学勉強の手がかりです。

哲学を勉強しているとイマイチわからないことが出てきます。

古典が多いためなのか言い回しも古くさく、抽象的なので何度読み直しても??? となってしまうのです。

哲学の人は、わかりにくいという声を聴くと、原書をあたれ！ とか、それが哲学だ！ とか突き放します。

さりとて、原書を読む時間などないし、そもそもそのスキルもない。

そうした言い訳が、そもそもダメだと哲学の人はいうでしょう。

とはいえ、哲学は原料が必要で、古典から現代までの用語が網羅されている本が求められていました。

もはや古典になっているのでしょうけれど、ソフィーの世界などはそうした試みだと思います。

ソフィー…は入りやすいように小説形式にしたり、それはそれで初心者の取っかかりになると思います。

他にも「超訳ニーチェの言葉」など、特定の人物に注目した本も哲学を勉強する手がかりになります。

でも、お手軽なムックを除いて網羅的に哲学を取り上げた本はなかなか見当たりませでした。

本書を手取るまでは。

本書は、難解な哲学を網羅的に平易に解説した画期的な「図鑑」です。

哲学の人はこうした安易な図説を見たらカンカンに怒るでしょうね。

だから今までこうした形で哲学（の手引き）は出てこなかったのでしょう。

哲学の人のように、哲学の扉を開く前に挫折させてしまうより、

本書のように扉の中に誘導してもらえると親切で嬉しいです。

あたかも、トイレの男女図のようです。

あったほうがわかりやすい。

個室に入ってこそ、思索できるのですから。

本書を手がかりに、哲学の勉強がはかどります。

哲学書の表現は出尽くしていた感がありましたが、ははー。この手があったか！

1 コメント | 99人のお客様がこれが役に立ったと考えています。このレビューは参考になりましたか？

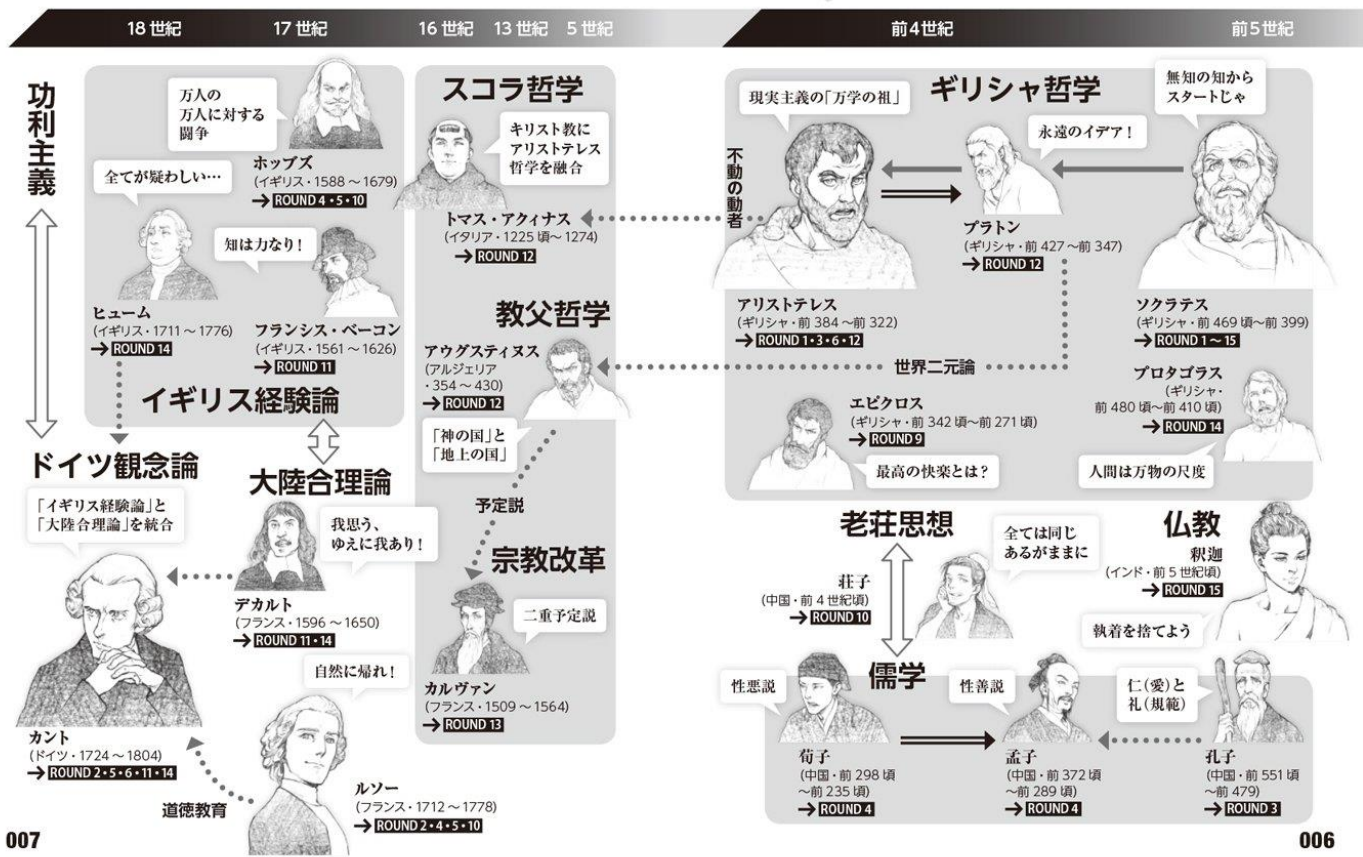
[違反を報告](#)



畠山創、『大論争！哲学バトル』、
角川書店、2016年.



見てわかる！ 思想マップ 哲学バトル参加者一覧 古代～18世紀



ROUND 01

格差はどこまで許されるのか？

富の偏在は不公平なのか？

現代社会を覆う諸問題の根源とも言える、格差が生む富の偏在。能力や環境に応じた配分は公平なのか、搾取であり不平等なのか？ 古代から論じられてきた問題の哲学的解答とは。

格差を容認！

アリストテレス

出身／ギリシャ
生没年／紀元前 384～紀元前 322
座右の銘／中庸(バランス)
プラトンに学び、やがて独自の現実主義の思想を主張。生物や政治など広範な対象を研究し、これらを全てフィロソフィア(「哲学」の語源)と称した。マケドニア王の要請で、少年時代のアレクサンダー大王を教育。



アレクサンダー大王の家庭教師

アダム・スミス

出身／イギリス
生没年／1723～1790
必殺技／見えざる手
経済の自由放任主義を主張し、資本主義社会を初めて体系的に論じた『国富論』の著者。グラスゴー大学等で哲学などを学び、同校で論理学・道徳哲学の教授に就任。講義録『道徳感情論(道徳情操論)』で高い評価を受ける。



近代経済学の幕を開けた哲学者

格差は是正されるべき！

マルクス

社会主義思想の父



出身／ドイツ
生没年／1818～1883
座右の銘／社会の歴史は階級闘争の歴史
ドイツ出身の経済・哲学者。ベルリン大学で学び、ヘーゲル哲学の強い影響を受ける。これを基調とし、史的唯物論を提唱。『共産党宣言』『資本論』などを著し、20世紀の思想・政治に多大な影響を与えた。

ロールズ

出身／アメリカ
生没年／1921～2002
必殺技／公正としての正義
第二次世界大戦後、哲学研究を本格化。プリンストン大学を卒業。その後ハーバード大学などで教える。1971年発表の『正義論』で、政治における「正義」とその正統性を議案に挙げ、政治哲学の分野などに大きな影響を与えた。



停滞を一変させた政治哲学

魅力的な哲学の「問い」とはどのような問いか？

- 『言語はなぜ哲学の問題になるのか』
- 『コウモリであるとはどのようなことか』
- 『哲学するのになぜ哲学史を学ぶのか』
- 『哲学はなぜ役に立つのか?』
- 『なぜ意識は実在しないのか』
- 『あたらしい哲学入門 なぜ人間は八本足か?』
- 『不合理性の哲学——利己的なわれわれはなぜ協調できるのか』
- 『それは私がしたことなのか 行為の哲学入門』

- 『カントはこう考えた—一人はなぜ「なぜ」と問うのか』
- 『タイムトラベルの哲学—「なぜ今だけが存在するのか」「過去の自分を殺せるか」』
- 『なぜ人を殺してはいけないのか?』
- 『なぜ私たちは過去へ行けないのか—ほんとうの哲学入門』
- 『時間は実在するか』
- 『足の裏に影はあるか? ないか? 哲学随想』

- 哲学のエッセンスシリーズ:
- 『ウィトゲンシュタイン 「私」は消去できるか』
- 『マルクス いま、 Kommunismus を生きるとは?』
- 『クリプキ ことばは意味をもてるか』
- 『レヴィナス 何のために生きるのか』
- 『ベルクソン 人は過去の奴隷なのだろうか』
- 『デイヴィドソン 「言語」なんて存在するのだろうか』
- 『スピノザ 「無神論者」は宗教を肯定できるか』

- 『デリダ なぜ「脱—構築」は正義なのか』
- 『メルロ＝ポンティ 哲学者は詩人でありうるか？』
- 『アリストテレス 何が人間の行為を説明するのか？』
- 『フッサール 心は世界にどうつながっているのか』
- 『デカルト 「われ思う」のは誰か』
- 『ライプニッツ なぜ私は世界にひとりしかいないのか』
- 『カント 世界の限界を経験することは可能か』
- 『プラトン 哲学者とは何か』
- 『ニーチェ どうして同情してはいけないのか』

まとめ：哲学史教育に関する組織的な情報共有

- 集団で共有して活用できる工夫は多い。
- 魅力的な「問い」。魅力的でない「問い」。
- 教えやすい哲学者、教えにくい哲学者。
- 教えにくい哲学者を教えやすくする工夫。
- 学部・学科ごとの学生が興味を持ちやすいテーマ、持ちにくいテーマ。